

## 参考資料

- 総合体育館基本構想検討委員会設置要綱 . . . . . 資料 1
- 総合体育館基本構想検討委員会委員名簿 . . . . . 資料 2
- 検討委員会の検討経過 . . . . . 資料 3
- 各検討委員会における議事概要 . . . . . 資料 4
- 各検討委員会における配布資料 . . . . . 資料 5

## 資料 1

## 総合体育館基本構想検討委員会設置要綱

(名称)

第1条 この委員会は、総合体育館基本構想検討委員会（以下「委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 委員会は、新たな総合体育館の基本構想の策定に向け、具体的な施設の機能や規模・構成等の検討を行うとともに、それらを踏まえた整備候補地などの検討を行うことを目的とする。

(委員)

第3条 委員会は、知事が委嘱した委員で構成する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選で選出する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。
- 3 委員長が不在のときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

- 第5条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。
- 2 委員長は、会議の議長となり、議事を整理する。
  - 3 委員長は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めることができる。

(会議の公開)

第6条 会議は、公開とする。ただし、委員会で協議の上、非公開とすることができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、鹿児島県総合政策部総合政策課スポーツ施設対策室に置く。

(雑則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年10月19日から施行する。

附 則

この要綱は、令和3年 4月 1日から施行する。

## 資料 2

## 総合体育館基本構想検討委員会委員

令和2年10月19日現在

|    | 氏 名                  | 役 職 名                                   |
|----|----------------------|---|
| 1  | いしづか よしのぶ<br>石塚 孔信   | 鹿児島大学法文学部法経社会学科教授                       |
| 2  | いむ た ひとし<br>伊牟田 均    | 鹿児島県観光プロデューサー                           |
| 3  | かみかわじ みえの<br>上川路 美恵野 | 公認会計士                                   |
| 4  | きかた じゆんね<br>木方 十根    | 鹿児島大学大学院理工学研究科教授                        |
| 5  | こん まさし ※<br>今 昌司     | フリーランス・プランナー                            |
| 6  | きかくち すみひろ<br>坂口 純弘   | (公財)鹿児島県体育協会専務理事                        |
| 7  | さきがわ みちこ<br>笹川 理子    | 弁護士                                     |
| 8  | たかじょう へいお<br>高城 藤雄   | 鹿児島県障害者スポーツ協会会長                         |
| 9  | たかほし よしお<br>高橋 義雄    | 筑波大学体育系准教授・スマートウエルネスシティ政策開発研究センター副センター長 |
| 10 | つまがり さだとし<br>津曲 貞利   | 鹿児島県経済同友会代表幹事                           |
| 11 | とうじょう ひろみつ<br>東條 広光  | 鹿児島県教育委員会教育長                            |
| 12 | にいざき やすみ<br>新崎 恭史    | (株)日本政策投資銀行南九州支店長                       |
| 13 | はまだ こうじ<br>濱田 幸二     | 鹿屋体育大学スポーツ・武道実践科学系教授・学長補佐               |
| 14 | ほんぼう みほ<br>本房 美保     | (公社)鹿児島県建築士会女性部会部会長                     |

※令和3年8月31日付けで辞任

敬称略、五十音順

## 新たな総合体育館の検討状況について

～総合体育館基本構想検討委員会における検討経過～

第1回委員会  
[R2.11.25]

- ①総合体育館の整備に向けたこれまでの検討経過について
- ②今後の検討の進め方とスケジュールについて  
検討委員会において、施設の機能・規模・構成（コンセプト）の検討を行い、その上で、整備予定地を含む基本構想（案）の作成を行うことが了承されました。
- ③先行事例調査の実施について  
委員に、施設の規模やイメージを掴んでいただくために行う同調査の実施について了承されるとともに、具体的な調査先と実施時期について、改めて調整することが了承されました。

第2回委員会  
[R3.5.31]

- ①需要予測調査結果について
  - ・メインアリーナの利用割合は、スポーツ利用が76%～87%程度、多目的利用が13%～24%程度
  - ・利用者数は、施設全体で28万人～41万人など事務局（県）から調査結果の説明がありました。
- ②施設の機能、規模・構成等の検討について  
総合体育館の在り方について、「スポーツ利用」を軸とすることについて、委員間の共通認識が得られました。

先行事例調査  
[R3.7.20～21]

委員に、施設の規模やイメージを掴んでいただくため、和歌山県の施設（和歌山ビッグホール及びビッグウェーブ）のメインアリーナ・サブアリーナ、柔剣道場、諸室等を調査しました。

第3回委員会  
[R3.7.21]

- ①第2回委員会が出された意見について
- ②県議会における論議の状況について
- ③施設の機能、規模・構成等の検討について  
メインアリーナがバスケットコート4面・観客席8千席程度、サブアリーナがバスケットコート2面、柔剣道場が各2面、計4面を目安とすることで、委員間の共通認識が得られました。

県体育館等視察  
[R3.8.3]

委員が県体育館・武道館及び鹿児島アリーナを視察し、各施設の現況や利用状況等について確認しました。

第4回委員会  
[R3.9.13]

- ①施設の機能、規模・構成（コンセプト）について
  - ・スポーツ振興の拠点機能として「する」スポーツをベースとしたアスリートファーストの施設とするとともに、「みる」スポーツや「ささえる」スポーツにも対応できる施設とすることにより、競技力向上や競技人口の増加、県民、とりわけ子ども達への良質なスポーツ環境の提供を図る。
  - ・多目的利用による交流拠点機能として、コンサート・イベント等の開催を通じ、様々な人々が交流できる施設とすることにより、賑わいの創出や経済波及効果など地域活性化とともに、施設の収益性にも寄与する。
 ことで委員間の共通認識が得られました。
- ②施設のコンセプトを踏まえた立地環境について  
施設のコンセプトに示された機能を最大限に発揮させる観点から交通利便性や宿泊・商業施設の集積状況を踏まえると、鹿児島市に立地することが望ましいとの委員間の共通認識が得られました。

第5回委員会  
[R3.11.16]

- ①県議会における論議の状況について
- ②複数候補地の選定について  
県有地、国有地、市有地、民有地について検討した結果、
  - ・鴨池ニュータウン9・10号街区
  - ・県農業試験場跡地
  - ・住吉町15番街区
  - ・ドルフィンポート跡地
  - ・市脇田処理場等跡地
 の5か所が選定されました。
- ③整備候補地の絞り込みに係る評価基準について  
評価基準として、交通利便性、宿泊・商業施設の集積状況、経済効果、敷地面積の確保など、専門のコンサルタントを活用して設定した12項目について検討した結果、評価項目について、次のとおり整理することとされました。
  - ア 県民に分かりやすく説明する観点から、4つにグルーピングを行う。
    - ①アスリートファースト、②経済波及効果・収益性
    - ③安心・安全、④実現可能性
  - イ まちづくりや他事業との関連など、今後の留意点を附帯意見として整理する。など

第6回委員会  
[R3.11.26]

- ①整備候補地について  
評価基準に基づき5か所の候補地について検討した結果、ドルフィンポート跡地と住吉町15番街区を一体的なエリア（鹿児島港本港区エリア）として、今後、レイアウトなど、基本構想（案）の作成に向けた検討を進めることとされました。

第7回委員会  
〔R4.1.11〕

- ①県議会における論議の状況について
- ②鹿児島港本港区エリアまちづくりについて
- ③鹿児島港本港区エリアにおける総合体育館のあり方について
- ④総合体育館の施設配置（案）について  
鹿児島港本港区エリアにおける総合体育館の施設の配置について検討した結果、施設本体はドルフィンポート跡地に整備することとし、住吉町15番街区には駐車場を整備することとされました。
- ⑤基本構想の項目（案）について

## 資料 4

### 第 1 回総合体育館基本構想検討委員会議事概要

#### 1 開催日時・場所

令和 2 年 1 月 2 5 日（水）午後 3 時から  
ホテルウェルビューかごしま

#### 2 会次第

- (1) 知事挨拶
- (2) 委員紹介
- (3) 委員長選出（※委員長に鹿児島大学法文学部の石塚孔信教授を選出）
- (4) 委員長挨拶
- (5) 議事
  - ① 新たな総合体育館の整備に向けたこれまでの検討経過について
  - ② 今後の検討の進め方とスケジュールについて
  - ③ 先行事例調査の実施について
  - ④ その他

#### 3 議事概要

事務局から以下について説明

- (1) 新たな総合体育館の整備に向けたこれまでの検討経過について
  - ・ 現行の県体育館の課題や利用状況，県議会におけるこれまでの主な論議等の状況等について説明
- (2) 今後の検討の進め方とスケジュールについて
  - ・ 当委員会において，前回の「大規模スポーツ施設の在り方検討委員会」の提言をベースとして，具体的な施設の機能，規模・構成等の検討を行い，その上で，整備候補地を検討し，最終的には基本構想（案）策定まで行う旨を説明し，了解を得た。
  - ・ 事務局案として，令和 2 年度中に 2 回，令和 3 年度中に概ね 5 回程度の開催を想定している旨を説明し，了解を得た。
- (3) 先行事例調査の実施について
  - ・ 事務局から「栃木県総合スポーツゾーン新体育館」，「武蔵野の森総合スポーツプラザ（東京都）」，「高崎アリーナ（群馬県）」，「墨田区総合体育館（東京都）」の 4 施設を提案
  - ・ 委員から寄せられた提案等を踏まえ，改めて事務局から調査先と実施時期について提案することを確認した。

#### 4 委員の主な発言（要旨）

- 施設をどう建てるかではなく，どう使うかが重要である。
- スポーツ振興の拠点としての機能と多目的利用による交流拠点としての機能は物理的に並列しない。どちらに重点を置くかで施設の在り方が変わる。
- 施設の具体的な機能や規模・構成を検討する上で，将来，県として招致したいスポーツ大会の具体像を明確にすべき。
- ただ，近年では，高校クラスの全国大会であっても，運営規模は大きくなっており，招致することは容易ではない。
- 総合体育館に関する議論の始まりから 10 年以上が経過しているが，議論が元に戻った気がする。その間，相当の費用と労力をかけて検討してきたが，未だにその整備に至っていない。迷走してきた感があり，また，民間から見るとスピードに欠けるのではないか。
- 検討委員会における今後の議論を進めるためにも，未だ整備に至っていない理由について総括すべき。
- 民意を吸い上げることは大事だが，どこかで知事や県議会が決断をすべき。
- 2023 年度のかごしま国体に間に合わせるようなスケジュールで検討するのではなく，アフターコロナを見据え，じっくりと施設の在り方を考えたい。特に，空調・衛生，動線，情報ネットワーク環境については，コロナを見据えた議論をしていただきたい。
- 経済界からは，以前からコンベンション機能を望む声がある。アスリートファーストを前提にした上で，複合的な施設がよいと考える。

- 指定管理者なのか、PFIなのかという運営の議論は必要であり、また、県の厳しい財政事情を鑑みても、整備後の継続可能な運営について議論すべきではないか。
- 施設がどのような使われ方をするのかを明確にした上で、施設の機能等を検討しなければ、様々な機能を求めてしまい、結果的に何にも使えない中途半端な施設になってしまう。
- 基本構想を夢物語に終わらせないためには、最終的にどれだけ知事が腹を括って予算を認めるかである。
- 何のために施設を整備するのかを明確にした上で、施設の規模等を検討しなければ、色々なものを盛り込み、その結果、整備費や、その後何十年も払い続ける維持管理費の額が大きくなり、次世代に大きな負担を残すことになる。
- 県の体育館として最低限維持しなければならない機能は何か、他の体育館で代替できる機能は何か押さえた上で、プラスアルファの部分を検討すべき。
- 鹿児島県が目指す施設の姿を念頭に置いて、視察すべき施設を検討すればよいのではないか。
- 日本国内の先進事例を見ることもよいと思うが、海外の民間資本で整備・運営している施設について勉強することも必要ではないか。
- 首都圏の施設もさることながら、立地環境が類似する自治体の施設の建設費や維持管理費なども知ることができればありがたい。

## 第2回総合体育館基本構想検討委員会 議事概要

### 1 開催日時・場所

令和3年5月31日（月）午後3時～午後5時15分  
ホテルウェルビューかごしま

### 2 会次第

- (1) 開 会
- (2) 議 事
  - ① 需要予測調査結果について
  - ② 施設の機能、規模・構成等の検討について
  - ③ その他
- (3) 閉 会

### 3 議事概要

- (1) 需要予測調査結果について
  - ・ 事務局から、昨年度実施した需要予測調査結果について説明
- (2) 施設の機能、規模・構成等の検討について
  - ・ 需要予測調査結果も踏まえ、新たな総合体育館に求められる機能、規模・構成等について検討
  - ・ 各委員からは、「スポーツ振興の拠点としての機能」と「多目的利用による交流拠点としての機能」のバランスのほか、今後の検討に当たっての論点など、様々な意見が出された。
  - ・ 各委員から出された意見について、事務局において整理した上で、次回の検討委員会で再度検討することを確認

### 4 委員の主な意見（要旨）

- これまでの経緯から、県内市町村は「新たな総合体育館の整備」について関心を持っていると思われる。市町村立体育館との役割分担について、市町村との協議・調整が必要ではないか。
- 本県の課題である県域全体のバランス、均衡ある発展について十分に検討しなくてよいのか。
- 予算についてある程度の担保や保証がなければ、本件は県民からの関心が高い中で、単なる理想を帯びた夢物語に終わってしまう。
- 維持管理について、PFIや指定管理者などを選択するのであれば、公募などの関係もあることから、どのようなスケジュールを設定するのか、早めに検討することが必要である。
- 将来的に「鹿児島アリーナ」と新体育館のすみ分けをどのように考えるのか整理が必要ではないのか。
- 鹿児島県が想定している8千という収容人数は、移動席も含んだ数字なのか。言い換えれば、移動席を抜いたキャパシティは6千という理解でいいのか。コンサート時のMAXの状態を想定して考えるのか、整理が必要ではないか。
- 現体育館の老朽化、狭隘により、全国・国際大会はもちろん、県内の大会でさえ、十分に開催できないため、できるだけ早く体育館を整備してほしいというのが競技団体の思いである。「する」スポーツを重点に置いて考えてほしい。
- 障害者のニーズとして、バリアフリー化ということで、障害者や、高齢者を含むすべての利用者が公平に使用できるように配慮してほしい。(車椅子用のスロープ・エレベーター・駐車場の確保・観客席スペースの確保、トランスジェンダー用の更衣室、サウンドテーブルテニス用の会議室など視覚障害者に配慮した施設)
- 現体育館の機能を維持する、あるいは質を上げていくことをベースにプラスアルファをどうするのか。コスト面にも配慮しながら議論する必要がある。

- 全国大会や国際大会の招致を目標とした時に、九州でも、今後できる「佐賀アリーナ」などとの競争になるので、他県のアリーナと比較される中で、国際スポーツ団体や、日本の競技団体から選びやすい、もしくはこちらの方がいいと言われるような施設でないといけない。
- 市町村の施設が整備されてきた現在において、市民の「する」スポーツは、身近な市町村の施設でやるべきであり、県の拠点となる施設は、他の県と比べて見劣りしない「みる」施設に重点をおいてはどうか。
- 市町村にはないような、例えば、「スポーツミュージアム」や「スポーツ図書館」など、市町村ではできないことをやるという視点が重要ではないか。
- 静岡県の場合から、今ある「スポーツの拠点」、「運動の拠点」のところに、隣接あるいは近接する場所を選ぶことも考えられる。
- コンベンションとか、あるいは展示場のことを考えたら、バスなどの利便性が高いことが重要であり、街との連続性を考えると郊外すぎても困る。
- 現体育館は、全国的に劣後していることから発議された案件だと思うので、「アスリートファースト」というか、「スポーツ振興」を軸に置くべきである。
- 欠けてはいけない視点として、スタジアム・アリーナ改革でも言われているように、この施設がちゃんと維持・継続できるような財政運営が可能な施設内容としなければいけない。
- せっかく作るのであれば、まちづくりのコアとなるような施設、或いは起爆剤、話題になるような、鹿児島に行ってスポーツをしたい、或いはMICEをやりたい、コンサートをやりたいというような施設を考えるべき。「スポーツ振興」を前提に置きながら、収益性、地域振興、経済活性化も併せて考えていくべき。
- 鹿児島に来ることで交流人口が増え、経済効果が大きくなる。MICEをやると婦人同伴で来るし、エクスカージョンもあるし地域振興、観光にも繋がっていく。機能、規模、収益性を考えていくべきである。日本にある横並び的な施設だけを参考にするのはなく、先進的な事例がないのか、或いは海外にも先を進んだところがないのか調査をするべき。
- 現体育館は、競技によっては試合だけでなく練習にも使えないなど、老朽化や狭隘の課題があり、これを踏まえると、競技面数は4面程度が必要ではないか。
- 各委員から意見があった「収支の観点」は非常に大事。この議論は競技面数なんてどうでもいいというくらい大事である。
- 鹿児島県が「スポーツ振興」に軸足を置くのであれば、「する」スポーツのためにどういう環境が必要かという論議が必要である。
- 総合体育館という用途上、「スポーツ振興」の方に重きを置く必要があるのではないかと、その中で各競技が過不足なく開催できる規模・機能が絶対条件になってくる。メインアリーナ・サブアリーナを含めた運営上適切な規模を求めることが重要である。
- 「みる」スポーツの機能というのは、スポーツ利用において上位にあるので、「みる」視点で施設を整備すれば「する」視点は包含される。
- 「障害者」に配慮した施設を作れば、「健常者」にとっても抜群に利便性の高い施設になる。



### 第3回総合体育館基本構想検討委員会 議事概要

#### 1 開催日時・場所

令和3年7月21日（水）12時15分～14時15分  
和歌山県民文化会館

#### 2 会次第

- (1) 開 会
- (2) 議 事
  - ① 第2回委員会が出された意見について
  - ② 県議会における論議の状況について
  - ③ 施設の機能、規模・構成等の検討について
  - ④ その他
- (3) 閉 会

#### 3 議事概要

- (1) 第2回委員会が出された意見について
  - ・ 事務局から、第2回委員会が出された意見及び新たな総合体育館の基本構想策定に向けた検討の進め方について説明
- (2) 県議会における論議の状況について
  - ・ 事務局から、県議会（令和3年第2回定例会）における論議の状況について説明
- (3) 施設の機能、規模・構成等の検討について
  - ・ 施設の機能、規模・構成等について検討し、以下の競技面数や観客席の規模を目安に、今後、具体的に検討を進めていくことで概ね委員間の共通認識が得られた。

#### 競技面数

メインアリーナ：バスケットボールコート4面  
サブアリーナ：バスケットボールコート2面  
柔 剣 道 場：各2面（計4面）

#### 観客席

8千席程度を基本

- ・ 次回の検討委員会までに、事務局において「みる」スポーツや「ささえる」スポーツに必要な機能について、各委員の意見を聴取・整理するとともに、今回各委員から出された意見について整理した上で、次回の検討委員会で引き続き検討することを確認

#### 4 委員の主な意見（要旨）

- 新総合体育館は、アマチュアスポーツの大会利用などスポーツ振興のための施設として検討を進めており、この施設にプロフィット化や収益事業を求めるのは考え方として逆行している。スポーツ振興を考えた場合の収入源は施設の利用料金であり、単価が安いというのは当たり前にある。そのため収入があってもコストの方が高く収益は成り立たない。これを覚悟でスポーツ振興はやらないといけない。
- 「する」スポーツに軸を置くとしても持続可能性をしっかりと考え、少しでも赤字を改善するように収支のバランスを考えるべきである。
- 事務局が提示した81m×46mのコートサイズでは、メインアリーナでバスケットボールコートを用いた場合に、選手が移動するスペースがない。4面でもしっかりと運営ができるコートサイズが必要である。
- 事務局が提示した競技面積は、今後の議論によってはスペースの割り増しが必要ではないのか。数字ありきで、コート長の長辺・短辺をここで確認したという流れにしてしまうのは良くないと思う。
- 4面とれる長辺80mを超える体育館は、現在それ程なく、それらの施設では無理にフリーゾーンを縮めて4面で運用している状況である。80mを超える体育館が、現在それ程ないのに、なぜ鹿児島で作る必要があるのかという議論になったときには、もっと良い体育館を作るためには必要なことであることを理詰めで説明すべきである。
- 車椅子バスケットボールの選手が車椅子同士ですれ違えられる、通れるような身障者のことも考慮したコートレイアウトを考えてほしい。
- 事務局が提示したコートレイアウトでは、4面できちんとした大会の運営はできないと考えるべきである。81mさえとれれば4面できるということではないことについて、委員間で共通の認識を持つべきではないか。
- 和歌山ビッグホエールを視察したことも踏まえた印象として、事務局の提示したコートサイズを議論のたたき台として、今後議論を深めていけば良いのではないか。

- スポーツを軸に置きつつ、人口減少、国際化の進展、情報社会の到来を受けて、地域活性化に寄与するために県外からの交流人口の増加に繋がる施設であってほしい。
- 鹿児島の場合は1万人規模のイベント実績はないので、8千席程度が良いのではないのか。
- 会議室や搬入口への配慮も必要であり、インターネット環境の整備、ポストコロナへの対応がしっかりした施設を検討するべきである。
- 整備場所については街との連続性がある場所が望ましく、スポーツミックスの場所か商業ミックスの場所なのか検討する必要がある。
- コンベンションを鹿児島ですると考えるなら、観客席は1万席程度必要ではないのか。
- 本県の財政状況も厳しいので、施設の収支を考えるべきであり、プロフィットとは言わないまでも赤字が出ないような仕組みは考えるべきでないか。
- ナショナルトレーニングセンターのような選手の育成の場という考え方が、どれだけ取り入れられるかということも1つの施設を作る上でのテーマになると思う。
- 体育館は、スポーツのスタジアム・アリーナガイドライン等では、スマートシティということで、人の集まりやすい場所に作るというのが基本である。観客席8千人という規模を決めたがゆえに、その面積を確保するために土地選定において、山の中に作るというようなことだけはやめてほしい。
- 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツに重要なのは、エントランスの空間や諸室であり、これらについて調査が必要と考える。

## 第4回総合体育館基本構想検討委員会 議事概要

### 1 開催日時・場所

令和3年9月13日（月）午後2時～午後4時10分  
市町村自治会館（Web開催）

### 2 会次第

(1) 開会

(2) 議事

- ① 施設の機能、規模・構成（コンセプト）について
  - ・ 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツに必要な機能について
  - ・ 規模（諸室）について
  - ・ 新たな総合体育館のコンセプトについて
- ② 施設のコンセプトを踏まえた立地環境について
- ③ その他

(3) 閉会

### 3 議事概要

(1) 施設の機能、規模・構成（コンセプト）について

- ① 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツに必要な機能について
  - ・ 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツに必要な機能について、協議
  - ・ 各委員から出された意見について、事務局において基本構想（案）の作成に向けて整理することとされた。
- ② 規模（諸室）について
  - ・ 諸室の構成や規模について協議し、以下の内容で、今後、具体的に検討を進めていくことで委員間の共通認識が得られた。

メインアリーナ、サブアリーナ：諸室の構成については、アリーナ標準等に基づき、更衣室、会議室、事務室などとし、それに係る必要規模は、概ね5,400㎡を目安とする。

柔剣道場、弓道場：諸室の構成については、器具庫、控室などとし、それに係る必要規模は、柔剣道場で概ね175㎡、弓道場の近的で概ね310㎡、遠的で概ね185㎡とする。

- ・ 規模（諸室）については、施設のレイアウトや動線により構成面積が変わることが想定されるため、整備予定地の決定後に具体的に調整して詰めていくこととする。
  - ・ その他、各委員から出された意見について、事務局において基本構想（案）の作成に向けて整理することとされた。
- ③ 新たな総合体育館のコンセプトについて
    - ・ 第3回までの検討委員会における検討結果や、「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツに必要な機能、及び諸室の必要規模を踏まえた新たな総合体育館のコンセプト（たたき台）について協議
    - ・ 新たな総合体育館のコンセプトについては、スポーツ振興の拠点機能として「する」スポーツをベースとしたアスリートファーストの施設とするとともに、「みる」スポーツや「ささえる」スポーツにも対応できる施設とすることにより、競技力向上や競技人口の増加、県民、とりわけ子ども達への良質なスポーツ環境の提供を図ることとされた。
    - ・ 多目的利用による交流拠点機能については、コンサート・イベント等の開催を通じ、様々な人々が交流できる施設とすることにより、賑わいの創出や経済波及効果など地域活性化とともに、施設の収益性にも寄与することとされた。
    - ・ 上記のコンセプトについて、委員間の共通認識が得られ、今後、これをベースに検討を進めていくこととされた。

## (2) 施設のコンセプトを踏まえた立地環境について

- ・ 総合体育館の立地環境について、専門のコンサルタントにおいて調査・分析した結果に基づき協議
- ・ 施設のコンセプトに示された、総合体育館の機能を最大限に発揮させる観点から、その立地条件について検討した結果、交通利便性や宿泊・商業施設の集積状況を踏まえると、鹿児島市に立地することが望ましいとの委員間の共通認識が得られた。

## 4 委員の主な意見（要旨）

- 若者のスポーツ離れが言われている中、ニュースポーツに触れる機会など、若者がスポーツに親しみやすい環境をつくり、スポーツ先進県鹿児島を目指してはどうか。
- 障害者に配慮した観客席の整備とあわせて、出入口の広さにも配慮されたい。
- 「みる」スポーツの観点から、Wi-Fi環境・動画配信機能の整備は重要。鹿児島の取組を情報発信できるよう積極的に取り組む必要がある。
- 「みる」スポーツへの対応として、客が飲食しながら観戦できるようなVIP室やラウンジの整備を検討してはどうか。
- エンターテイメントの観点から、VIP室だけでなく、幅広い方が利用できるようなラウンジについても検討すべき。
- 多目的更衣室について、他県の整備状況を情報収集・整理の上、委員会に提示してほしい。
- 「みる」スポーツやコンサート・イベント等の多目的利用に対応するためには、電気・水道・ガスを使えることなどの配慮が必要である。
- 機能について、様々な意見が出されたが、取りまとめに向けての優先順位を考えることが必要。また、時代の変化も見据え、各部屋のレイアウトについては、柔軟性を持たせてほしい。
- スポーツ振興に軸足を置くことを前提とした上で、多目的利用についても、施設の持続可能性・地域活性化の観点から重要であり、今後、立地場所の議論等と併せて具体的に検討していくべき。
- 多目的利用の視点から、会議室や展示機能などを施設の中に入れ込みすぎると中途半端な施設になり良くない。これらの機能は、周辺施設との連携により確保する方が望ましいと考える。

- 県大会の主な参加者である中高生、とりわけ離島生徒の経済的な面も含めた負担軽減の観点からも、新たな総合体育館は、鹿児島市で港に近い場所に立地することが望ましい。
- 平等な競技環境の提供の観点から、離島から参加する生徒には、帰りの船の乗船時刻を気にせず、競技に集中させたい。
- 県大会等の交通手段として自家用車の利用が多いことを考えると整備候補地の検討に当たっては、駐車場の確保について考慮すべきである。  
また、複数の整備候補地について、それぞれのメリット、デメリットが分かるようにして議論を進めるべきである。
- 全国大会やコンサートなどについては、群集の安全な移動と、イベント前後の経済波及効果を考慮して、交通計画や立地の検討が必要である。
- 新たな総合体育館は、スポーツ大会やコンサート等イベント開催時に多数の方が来場することから、騒音等周辺住宅への影響は考慮すべきである。

## 第5回総合体育館基本構想検討委員会 議事概要

### 1 開催日時・場所

令和3年11月16日（火）午後1時30分～午後4時  
市町村自治会館

### 2 会次第

(1) 開会

(2) 議事

- ① 県議会における論議の状況について
- ② 複数候補地の選定について
- ③ 整備候補地の絞り込みに係る評価基準について
- ④ その他

(3) 閉会

### 3 議事概要

(1) 県議会における論議の状況について

- ・ 事務局から、県議会（令和3年第3回定例会）における論議の状況について説明

(2) 複数候補地の選定について

- ・ 複数候補地について、鴨池ニュータウン9・10号街区、県農業試験場跡地、住吉町15番街区、ドルフィンポート跡地、市脇田処理場等跡地の5か所が選定された。

(3) 整備候補地の絞り込みに係る評価基準について

- ・ 評価基準について、次の点を事務局において修正の上、次回検討委員会において評価結果と併せて提示することとされた。
- ・ 評価項目について、県民に分かりやすく説明する観点から、4つにグループングを行う。
  - ①アスリートファースト、②経済波及効果・収益性
  - ③安心・安全、④実現可能性
- ・ 評価にはなじまないが、重要な視点であるまちづくりや他の事業との関連など、今後の留意点を附帯意見として整理

- ・ 防災やコストなど、評価の結果、体育館の建設が困難と思われる項目については、欠格事由として整理

### 4 委員の主な意見（要旨）

- 5か所の整備候補地のうち、本港区エリアの2か所については、「本港区エリアまちづくりグランドデザイン」との整合性が求められる。
- 他の事業での活用において検討が求められている土地もあり、この委員会においてピンポイントで場所を決めるのは難しいのではないかと、もう少し広く、ゾーンで決めるというやり方もあるのではないかと。
- ここで場所を決めてしまわないと、いつまで経っても堂々巡りの議論になってしまう。
- 知事へのたより等でいただいた整備候補地に係る意見・要望についても、本日協議された候補地の絞り込みに係る評価基準に基づき評価し、その結果を整理すべき。
- 「防災上の課題」、「法令への適合性」、「費用面での留意点」は、評価の結果、体育館の建設に相当な困難が生じる場合、その候補地を欠格とする項目として整理してはどうか。
- 全ての項目を同じウェイトで評価するのは、対外的な説明が難しいのではないかと。
- 委員によって重視したい項目が異なることから、事前にウェイト付けを行うのは難しいと考えられる。代わりに、例えば「アスリートファースト」、「経済波及効果・収益性」、「安心・安全」、「実現可能性」といったカテゴリーに評価項目を分け、分野ごとの点数が可視化できれば、議論しやすいのではないかと。
- 本港区まちづくりのグランドデザインやサッカー等スタジアム、コンベンション・展示施設など、まちづくりや他の事業等との関連については、当委員会で議論する事柄ではないが、検討に当たって重要であることから、今後の留意点として整理し、次回の検討委員会に提示していただきたい。

## 第6回総合体育館基本構想検討委員会 議事概要

### 1 開催日時・場所

令和3年11月26日（金）午前9時30分～正午  
市町村自治会館

### 2 会次第

- (1) 開 会
- (2) 議 事
  - ① 整備候補地について
  - ② その他
- (3) 閉 会

### 3 議事概要

- (1) 整備候補地について
  - ・ 評価基準に基づき5か所の整備候補地  
(鴨池ニュータウン9・10号街区, 県農業試験場跡地, 住吉町15番街区, ドルフィンポート跡地, 市脇田処理場等跡地)  
を評価した結果について, 客観的・専門的に検討
  - ・ その結果, ドルフィンポート跡地が最も優位であるが, 他の事業との関連も考慮し, 住吉町15番街区を加えた2か所を一体のエリアとして, 今後, レイアウトなど, 基本構想(案)の作成に向けた検討を進めることとされた。
- (2) その他
  - ・ 事務局から, 基本構想に盛り込んでほしい事柄等について, 今後, 広く県民から意見を募集し, 結果を検討委員会にお示ししたい旨説明

### 4 委員の主な意見(要旨)

- (ドルフィンポート跡地が望ましいとの意見)
- ドルフィンポート跡地は, 交通利便性や離島とのアクセスが良く, 駐車場も確保できる。中心市街地に近く経済波及効果も期待できる。このため落とす理由がない。

- 財政が厳しい中で持続可能な施設を作る必要があり, スポーツ振興と多目的利用を合体させた複合的施設をドルフィンポート跡地につくることが地域活性化につながり, 賑わいの創出・まちづくりに貢献できる。
- 屋内競技団体もドルフィンポート跡地に作ってほしいという意見である。
- 大会の運営・効率化, 離島生徒への配慮, 国際大会・プロリーグ等の誘致の観点から, 宿泊施設と競技会場とのアクセスのしやすさが問題であり, これらを考慮するとドルフィンポート跡地がふさわしいと思う。
- 評価結果をもとに5つの候補地から決めて欲しい。障害者団体が一番気にする交通の便は, ドルフィンポート跡地と住吉町15番街区が高い点数。その中で, 評価結果の点数が一番高いドルフィンポート跡地につくって欲しい。
- ドルフィンポート跡地は, アスリートファーストの視点から交通の便が良いこと, 周辺の宿泊施設数が多いことが最大のポイント。
- ドルフィンポート跡地は, 鹿児島県の将来50年を見越した上で, 回遊性の高いエリアに集客装置としての総合体育館を設置することで, 商業との連携からの経済波及効果も期待できる。  
コンベンション・展示機能を備える施設との連動は, 施設設計のコンペの段階で審査の重要項目に入れておくことで, 建築家・設計事務所の知恵を引き出すことができるのではないか。
- ドルフィンポート跡地は, 本港区のランドデザインとの整合についても相容れないものではない。この委員会は体育館の委員会であり, グランドデザインとの整合をどうするかという議論をする場ではなく, 周辺のまちづくりについては, 設計・施工する段階で調整してもらえれば。
- ドルフィンポート跡地は面積が広く, ウォーターフロントパークもあるので, 例えばスケボーができるといった子供達が動いているようなイメージが湧き, 様々な人達が色々な活動が出来て, スポーツを身近に感じてもらえるという気がした。その点で点数どおり魅力的。

(整備候補地は本港区エリアで検討すべきとする御意見)

- ドルフィンポート跡地を主軸に考えるということについて異論はないが、未来軸の中で、同敷地での活用が議論されているコンベンションやサッカースタジアムと一体的な開発を考えざるを得ない。  
そのため、駐車場の整備を含めドルフィンポート跡地を主軸に住吉町15番街区も含めて一体的に検討してはどうか。
- ドルフィンポート跡地を体育館だけが独り占めしないように、今後、本港区エリア全体のゾーンとして、まちづくりを一体的に未来軸を作りながら検討するというテーブルを作り、協議しながら進めていくことが望ましい。
- 住吉町15番街区は、若干狭く、ハザードマップ上での問題があるとはいえ、ドルフィンポート跡地と絡めて街づくりの観点で検討できれば、良いところだと思う。  
2つの場所を広い地域としてとらえることは、体育館の方向性に柔軟性を持たせるという意味でも賛成できる。
- (本港区エリアに整備する場合、) ウォーターフロントパークとの一体的な使用も検討していくべきではないかと考える。

(整備候補地としてドルフィンポート跡地は反対とする意見)

- 評価項目のカテゴリーの一つである「アスリートファースト」において、ドルフィンポート跡地が優位となったが、このカテゴリーは、アスリートファーストよりも観光ファーストに偏って設定されている印象。
- ドルフィンポート跡地は桜島や錦江湾の景観を一望できる超一等地。体育館の候補地としても魅力的だが、多くの大規模施設の最適地にもなり得る。最適な活用法は何かという大所高所からの観点を無視して、ここに体育館を作る前提で話を進めて良いとは思えない。早い者勝ちの理論で良いのか。  
交流拠点機能の割合3割を堅持するのであれば、住吉町15番街区、割合を下げることも考え得るのであれば、鴨池ニュータウン9・10号街区の2候補地が適当と考える。

- 評価点が高いドルフィンポート跡地については、活用方法として今回の体育館が最もふさわしいのかという点で疑問が残り、反対。
- 一定の広さが確保でき、スポーツ施設との連携が期待できることから、鴨池ニュータウン9・10号街区が良い。
- 閉ざされたこれまでの体育館が、景観の良い住吉町15番街区やドルフィンポート跡地に建築されるということであれば、賛成はしかねる。

(その他)

- 整備地を決め、本委員会のまとめたコンセプトを効果的・効率的にする総合体育館のアイデアを県民から募ることが大事。県民参加型の施設づくりにより、県民の期待に応える施設が実現できる。
- 住吉町15番街区やドルフィンポート跡地のような眺望の良いところに建つことになれば、市街地からの眺望や人の流れを遮らないような工夫がなされていることを十分に県民に説明することが重要。
- 整備候補地としての判断は、ドルフィンポート跡地の持つ景観等の価値を重要視するか、住吉町15番街区の敷地の狭さ等の問題を補うコストを重要視するか。
- ドルフィンポート跡地に決めた場合、附帯条件がつく話。その場所の価値があるので、景観などの問題に配慮する設定じゃないと受け入れられない。そこに箱物だけの閉ざされた施設を作ってしまうば、望むところではない。
- 複合的な機能を持たせる体育館は構想としては素晴らしいが、従来型の体育館を建設するよりも建設コストや維持管理のコストが高くなると想定される。そのコストを賄う収益を上げられるのか懸念がある。
- ドルフィンポート跡地と住吉町15番街区で建てる時のイメージが変わってくるのではないかと。
- 10年間ずっと議論してきており、現体育館の老朽化を踏まえるとまったなしというところであり、今回本委員会としてピン留めをしないとこの後の手続きが何も進まない。



- 本委員会は体育館の委員会ということであるので、できるところまで絞り込んだ上で他のプロジェクトとのリンケージを速やかに図っていくべきだと思う。
- 今後検討するレイアウトについては、総合体育館と一体となってまちづくりに寄与する建物が立地できるよう、将来の増築余地を盛り込んでいただきたい。
- 県産材を使用した木質化の検討により鹿児島らしさに配慮していくことは、重要である。

## 第7回総合体育館基本構想検討委員会 議事概要

### 1 開催日時・場所

令和4年1月11日（火）午後3時～午後5時40分  
市町村自治会館

### 2 会次第

(1) 開会

(2) 議事

- ① 県議会における論議の状況について
- ② 鹿児島港本港区エリアまちづくりについて
- ③ 鹿児島港本港区エリアにおける総合体育館のあり方について
- ④ 総合体育館の施設配置（案）について
- ⑤ 基本構想の項目（案）について
- ⑥ その他

(3) 閉会

### 3 議事概要

(1) 施設の配置（案）について

- ・ 施設の配置（案）について、施設本体をドルフィンポート跡地に、駐車場を住吉町15番街区に整備することとして、今後基本構想（案）の作成に向けた検討を進めることで委員間の共通認識が得られた。

### 4 委員の主な意見（要旨）

- 近年、都市のデザインにおいて、プレイスメイキングという考え方として、特定の機能を特定の人を使うだけでなく、イベントスペースなど臨機応変に対応できる多目的な場づくりが重視されている。  
本港区まちづくりと交流機能としての総合体育館との関係については、資料1のとおりでよいと思うが、重要なのは、体育館と体育館以外の部分、プレイスメイキングの考え方の中でどういう場所になっていくのか、あるいは相乗効果を生むような形になっていくのか。本港区エリア全体のまちづくりの中で総合的に捉えて考えていくことが重要

- 参考資料2の海辺の広場やコリドー（通路）がある神戸市の事例のように、本港区エリアの中で居心地がよい空間づくりを進めていければよい。例えば、プロチームがウォーミングアップをしている様子を、スポーツ利用以外の来訪者が垣間見ることができるようにするなど、スポーツをする人もしない人も気軽に立ち寄れるような仕掛けづくりを行うことで、相乗効果を生み出すことができるのではないかと。

- アスリートファーストの施設として、良質な競技環境を提供する観点から、傷害への配慮、記録への留意といった面での仕様や照明等の設備について、きちんと検討する必要がある。

- スポーツ利用だけでなく、多目的利用も含めた体育館がコンセプトとなっているが、施設に複合的な機能を設けることで、コストが増えるのではないかと懸念している。

- コストに関し、インシヤルコストもさることながら、本施設は規模が大きく、運営も多岐にわたることが想定されることから、ランニングコストが重要になる。

施設の持続可能性の観点から、多目的利用による収益の改善を図ることに加え、PFI手法の導入など、民間資金も取り入れることが必須となるのではないかと。

- アスリートファーストのコンセプトは踏まえつつ、MICE等の多目的利用にも活用することで、施設の収益も上がる。また、中心市街地との回遊性、相乗効果を図ることで、鹿児島全体として収益を上げていく、そういう視点が非常に大事

- 本港区エリアの立地を活かし、展望デッキや鹿児島の食を提供するレストラン、景観を活かしたウォーキング・ジョギングエリアなどの整備により、賑わいの創出や付加価値の向上を図るような取組も検討してはどうか。

- 「総合体育館」という名称が、昔ながらの閉ざされた体育館を想起させてしまう。例えば、「スポーツ・コンベンションセンター」といったネーミングにすれば、県民のイメージも変わってくるのではないかと。

- 鹿児島市は地形上、東西に広がりがなく、南北に幹線道路があることから、街が面的に形成されづらい。そのような中で、以前のドルフィンポートのように幹線道路に並行して敷地全体に施設を配置するのは街を分断することになる。  
そういった意味で、今回の配置案における多目的広場の設置は非常に重要
- 総合体育館は、隣地のウォーターフロントパーク、新たに設置される多目的広場、水族館等と連携することにより、海に近い立地を活かした水辺のスポーツ空間として大きな可能性がある。  
また、水辺の空間の観点から、海から見た景観も重要な視点
- 基本構想の策定後は、本港区エリア全体の中でのエリアマネジメントの観点が非常に重要。まちづくりの視点で、鹿児島市、関係団体、天文館関係者を含めたプラットフォームが不可欠
- 景観については、総合体育館を都市景観、ランドスケープとして捉え検討することが必要
- 今後はまちづくりの中での検討も必要となることから、都市計画の専門家の知見なども入れた形での次のテーブルが必要  
その中で、中長期的な視点での市電の路線新設、北ふ頭の活用、ウォーターフロントパークの活用なども視野に入れた検討が必要
- 附帯意見における今後の中長期的なまちづくりの検討の記載においては、増築余地としてのウォーターフロントパークの活用と多目的広場の存置という論点を加えてほしい。
- 本港区エリアへの一体的な整備が決定して以降、鹿児島市や経済関係者等との話し合いが行われていることについて、評価している。  
次回の検討委員会において、状況を教えてほしい。

総合体育館基本構想検討委員会  
～先行事例調査について～

総合政策部スポーツ施設対策室

先行事例調査施設の概要

1 目的

検討委員会における新たな総合体育館の機能や規模・構成などの検討に資するため、他県の体育館を調査し、施設の規模感やイメージを掴んでいただくために実施

2 内容

メインアリーナやサブアリーナ、柔道場、剣道場、会議室や控室などを視察し、施設の規模や構成等について調査を行った。

3 開催日時・場所

(1)令和3年7月20日(火)  
和歌山ビッグウエーブ 午後3時～4時

※ 当初予定していた大阪中央体育館については、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、20日に調査先にて事務局から動画や写真等により施設の規模・構成等について説明を実施(午後4時～5時)

(2)令和3年7月21日(水)  
和歌山ビッグホール 午前9時20分～11時

3 参加者数

全14名中9名の委員が参加

4 委員の主な意見

- ・施設のイメージを掴むことができ参考になった。
- ・施設の広さのほか、観客席について、可動席も出してもらいイメージが沸いた。
- ・観客席が急で、高齢者、障害者にとっては、少し無理な勾配になっているところがあった。
- ・会議室、更衣室、メインアリーナとサブアリーナの距離、可動席の動きなど、写真ではなく、現場を見て分かったことが多々あった。など

| 施設名         | 和歌山ビッグウエーブ  | 施設外観・メインアリーナ  |
|-------------|---|---|
| 設置者<br>(人口) | 和歌山県<br>(954千人)   |  |
| 所在地<br>(人口) | 和歌山市<br>(366千人)   |   |
| 供用開始        | 平成24年4月   |  |
| 建物概要        | ○敷地面積<br>不明<br>○延床面積<br>8,037㎡<br>○地上3階   |   |
| 施設概要        | <p>○メインアリーナ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技面 2,390㎡ [62m×38m] (バスケ2面)</li> <li>・観客席 固定席:510席, 可動席:968席<br/>最大収容人数 約1,480人</li> <li>※「和歌山ビッグホール」のサブアリーナ的施設</li> </ul> <p>○サブアリーナ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技面 1,060㎡ [53m×20m] (バスケ面)</li> <li>・観客席 なし</li> <li>※レスリング、フェンシング専用</li> </ul> <p>○武道場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道場4面 ※電動式柔道置4台あり</li> </ul> <p>○その他の施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・師範室, 医務室 他</li> </ul> |   |
| 開催実績        | <p>○全国大会・国際大会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本9人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会(2018.12)</li> <li>・全国高等学校空手道選抜大会(2019.3) 他</li> </ul> <p>○コンサート<br/>不明</p>  |   |

先行事例調査施設の概要

| 施設名         | 和歌山ビッグホエール  | 施設外観・メインアリーナ  |
|-------------|---|---|
| 設置者<br>(人口) | 和歌山県<br>(954千人)   |  |
| 所在地<br>(人口) | 和歌山市<br>(366千人)   |   |
| 供用開始        | 平成9年7月  |   |
| 建物概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○敷地面積 54,090㎡</li> <li>○延床面積 17,234㎡</li> <li>○地上3階地下1階</li> </ul>   |   |
| 施設概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○メインアリーナ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技面 3,280㎡ [80m×44m] (バスケ4面)</li> <li>・観客席 固定席: 2,980席, 可動席: 2,080席</li> <li>最大収容人数 約8,500人</li> </ul> </li> <li>○サブアリーナ (軽運動場)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技面 420㎡ [27m×15.6m] (バスケ面)</li> <li>・観客席 なし</li> </ul> </li> <li>○武道場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>なし ※隣接する「和歌山ビッグウェーブ」内にあり</li> </ul> </li> <li>○その他の施設                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別室, 会議室 他</li> </ul> </li> </ul> |   |
| 開催実績        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国大会・国際大会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本9人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会 (2018.12)</li> <li>・Vリーグ (2019.12) 他</li> </ul> </li> <li>○コンサート                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・back number (2019.8)</li> <li>・米津玄師 (2020.2) 他</li> </ul> </li> </ul>  |   |

先行事例調査施設の概要

| 施設名         | 大阪市中央体育館<br>(丸善インテックアリーナ大阪)   | 施設外観・メインアリーナ  |
|-------------|---|---|
| 設置者<br>(人口) | 大阪市<br>(2,730千人)  |  |
| 所在地<br>(人口) | 大阪市<br>(2,730千人)  |   |
| 供用開始        | 平成8年5月  |   |
| 建物概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○敷地面積 123,986㎡</li> <li>○延床面積 42,665㎡</li> <li>○地上1階地下3階</li> </ul>  |   |
| 施設概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○メインアリーナ (第1体育館)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技面 3,580㎡ [77m×46m] (バスケ4面)</li> <li>・観客席 固定席: 5,932席, 可動席: 1,390席</li> <li>最大収容人数 約10,000人</li> </ul> </li> <li>○サブアリーナ (第2体育館)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技面 1,540㎡ [38m×35m] (バスケ2面)</li> <li>・観客席 固定席: 188席</li> </ul> </li> <li>○武道場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・柔道場2面, 剣道場2面</li> </ul> </li> <li>○その他の施設                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング室, 会議室, 更衣室 他</li> </ul> </li> </ul> |   |
| 開催実績        | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国大会・国際大会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールドカップバレーボール2019 (2019.9)</li> <li>・全日本剣道選手権大会 (2019.11)</li> <li>・全国都道府県対抗中学校バレーボール大会 (2019.12) 他</li> </ul> </li> <li>○コンサート                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・樺坂46 (2019.4)</li> <li>・SUPER JUNIOR (2020.2) 他</li> </ul> </li> </ul>  |   |

総合体育館基本構想検討委員会  
～県体育館等の視察について～

総合政策部スポーツ施設対策室

**1 開催日時・場所**

令和3年8月3日(火) 午後1時30分～午後4時40分

- ・県総合体育センター体育館 午後1時30分～2時30分
- ・県総合体育センター武道館 午後2時40分～3時10分
- ・鹿児島アリーナ 午後3時30分～4時40分

**2 参加者数**

全14名中7名の委員が参加

**3 委員の主な意見**

(1)県体育館と武道館について

- ・老朽化と狭隘を実感した。
- ・全国・国際レベルの大会は開催できない印象を受けた。

(2)鹿児島アリーナについて

- ・同アリーナは観客席が5千席程度とのことで、新総合体育館はもう少し大きい規模(8千～1万席程度)の方が、すみわけができる。など